



にこにこ通信



就学前乳幼児（0～5歳児）のおられる家庭の子育て支援を行っています。
ふれあいの場、出会いの場、学びの場として、たくさんの方に利用していただきたいと思います。
ぜひ、みなさん気軽に、遊びに来て下さいね。



自由利用について

月～金曜・土（月2回） 午前9時～午後3時

★自由に遊び来て下さいね。



食べる意欲を大切に、食の体験を広げよう



おなかがすくリズムを作りましょう

「おなかがすいた」感覚をもつには、十分に遊び、食事を規則的にとることのできる生活環境が必要です。この時期にこの感覚を繰り返し体験することで、生活リズムが作られていきます。

食べたいもの、好きなものを増やしましょう

幼児期には食べ慣れないものや嫌いなものも出てきます。簡単な調理を手伝ったり、栽培や収穫に関わったりするなど、さまざまな食べ物に子ども自身が意欲的に関わる体験を通して、子どもの食べたいもの、好きなものは増えていきます。

栽培、収穫、調理をととして食べ物に触れましょう

栽培、収穫、調理を通して身近な食材に触れることは、食べ物が自然の恵みからできた生物であることを実感することになります。また、行事食や郷土食を取り入れることは、食文化に触れることになり、食べ物への関心は広がっていきます。そして、料理づくりには、味、色、香り、音など、子どもの好奇心を刺激する発見や驚きがたくさんあります。

家族や仲間と一緒に食べる楽しさを味わいましょう

家族や仲間と一緒に食べる楽しさを味わうことは、身近な人との基本的信頼感を確認していくことになります。安心感や信頼感は、子どもが体験を広げていく基盤になるものです。

食べ物や身体のことを話題にしましょう

買い物や食事場面で食材や食べ方について話題にしたり、遊んだり、本を見たりする場面でも、食べ物や身体のことを話題にしたりする体験を通して、食べ物への関心は深まっていきます。



☆多可町子育てふれあいセンター <Email>kosodate@town.taka.lg.jp

〒677-0114 多可町八千代区仕出原 353

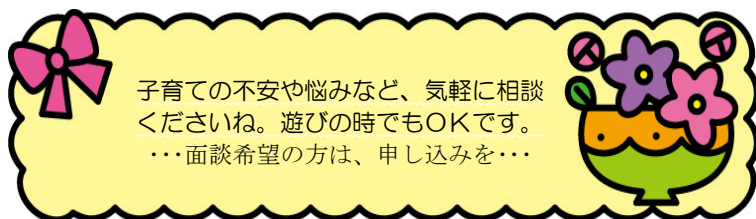
〈TEL/FAX〉(0795) 37-2525



★天候等により、活動場所・内容が変更になる場合があります。変更内容については、ホームページで、確認することができます。<http://takacho.tokyo.r-cms.jp/kosodate/>

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 自由開放 子育てふれあいセンター
3	4	5 ・おやこ活動 (H27) なか・やちよの森	6 ・おやこ活動 (H28) 中児童館	7 ・おやこ活動 (H26) 中児童館	8 ★親子あそび 交流会館	9
10	11 ・食育 C ・ほかほか C 子育てふれあいセンター	12	13	14 ・にこにこ教室 (H23～26) グリーンプラザ集合	15	16 自由開放 子育てふれあいセンター
17	18 敬老の日	19 ・おやこ活動 (H27) 中児童館 ・おやこ活動 (H26) 旧中町幼稚園	20 ・おやこ活動 (H28) なか・やちよの森	21 ★いずみ会 との交流 八千代プラザ	22 ★親子あそび 加美体育館	23 秋分の日
24	25 ★赤ちゃん広場 子育てふれあいセンター	26 ★園児交流会 ちびっランドらくえん	27	28 ・にこにこ教室 (H23～26) 余暇村公園集合	29 ★学習会 多可町図書館	30

★「年度別おやこサークル活動」「自主サークル活動」「にこにこ教室」の内容については、在宅家庭配布の『ほかほかたより』をご覧ください。



家庭相談員にも相談できます

子どもの成長や発達に関すること、家庭をはじめ子どもを取りまく生活環境に対する悩みなど、子どもに関するあらゆる相談があれば、お気軽にご連絡ください。

こども未来課 教育委員会 電話 32-2385

学習会～人は人の中で育つ～八千代プラザより

～参加者の感想～

「子どもがここにいるだけで幸せ」という言葉は私の宝物にしたいと思いました。
子どもの行動に無駄はない、全て生きる力だという事を忘れず子どもの事を見守っていきたいです。
イライラして大きな声を出してしまう自分のことが嫌でたまりませんでした。今日先生のお話を聞けてスーッと心が軽くなりました。
子どもたちに、ここにいてくれてありがとうという気持ちを改めて感じる事ができました。



子ども一人ひとりのありのままの姿を受け止め、今できることを注ぎたいと思いました。
これからの子どもの成長が、楽しみにになりました。
先生のあたたかい言葉がたくさん心に響きました。

活動のお知らせ

保育園・幼稚園がお休みの時は、いつでも遊びに来てね。

☆親子あそび・・・誰でも参加できます。申込不要

と き： 9月8日(金) 10:00～11:30

ところ： 交流会館

内 容： 「しゃぼん玉あそび」

*いろいろな大きさのしゃぼん玉で遊びましょう。
大きなしゃぼん玉の中に入ってみよう！

持ち物： お茶、帽子、タオル

【雨天時】 交流会館であそびます。

と き： 9月22日(金) 10:00～11:30

ところ： 加美体育館

内 容： 「おやこ運動会」

*年齢にあった運動あそびで、お互いに成長を感じましょう。

持ち物： お茶

☆園児交流会 ...申込必要(先着7組)

と き： 9月26日(火) 10:00～11:00

ところ： ちびっこランドらくえん

内 容： 園児と一緒にあそびましょう

【持ち物】 お茶

赤ちゃん広場

と き： 9月25日(月) 10:30～11:00

ところ： 子育てふれあいセンター

内 容： ・身体測定

申込不要

・スキンシップあそび

・おはなししましょう

その後センターで自由遊び

*誰でも参加できます。気軽にお越しくださいね。

☆いずみ会 食育教室 ...申込必要

(先着16組)

と き： 9月21日(木) 10:00～13:00

ところ： 八千代プラザ

内 容： 「親子クッキング」

～選ぶ力・味がわかる力を身につけよう～

【献立】 照り焼きレンコンハンバーグ
きゅうりとトマトのサラダ
ごはん・みそ汁(塩分チェック)

参加費： 1人 100円

持ち物： エプロン・お茶

三角巾(お子さんの分もあれば)

※ 朝ご飯チェック表を申し込み時に渡します。

当日持ってきてくださいね。

☆学習会 ...申込必要

と き： 9月29日(金) 10:00～11:30

ところ： 多可町図書館

内 容： 喜びのおとずれは 絵本とともに

講 師： 大澤 百世氏

いろいろな絵本を紹介していただきながら、
絵本の魅力をいっぱい伝えていただきます。

*詳細、申込みについては、チラシをご覧ください。

【申込み・問合せ】

多可町子育てふれあいセンター

37-2525

秋に読みたい「お月さま」の絵本を紹介します



おつきさま なにみてる

作：なかじま かおり

出版社：岩崎書店

夜空にうかぶ、まあるいお月さまが、ねむっているこいぬやことり、こねこをやさしく見守っています。そして、おうちでねむる、ちいさな赤ちゃんも……。赤ちゃんにぴったりの、おやすみなさいの絵本です。赤ちゃんが特に好むという人間の顔のパターンが、優しいお月さまになってあらわれました。ちいさな赤ちゃんから楽しめるベビー絵本です。



お月さまってどんなあじ?

文・絵：マイケル・グレイニエツ

訳：いずみ ちほこ

出版社：らんか社

「お月さまってどんなあじなんだろう」動物たちはお月さまを見るたびに、そんな素朴な疑問を抱いていました。お月さまを一口かじってみたいという動物たちが次々に自分の背中に他の動物をのせていきます。段々に空に向かって高くなっていく場面が目を見せます。そして、とうとう…。質感ある絵と、繰り返しのリズムが楽しい絵本です。

子どもの気持ち・親の気持ち

「まったくもう。言うことを聞かないんだから!」「何度言ったらわかるの!?!」・・・。
言うことを聞かないわが子について感情的になり、ガミガミと叱ってしまうお母さんも多いのではないのでしょうか。そもそも、子どもはなぜ言うことを聞かないのでしょうか。

その答えは簡単です。「子どもだから」です。とくに3歳くらいの子は、コミュニケーション能力が未熟なのに加え、判断力が自己中心的で、相手の都合や立場を理解することができません。お母さんが「ダメ!」と言った“その瞬間”はわかりますが、「なぜダメなのか」「自分はどうすればよいのか」などを考える力が、まだまだ不足しているのです。

～ブレーキをかけすぎない～

子どもは3歳くらいから、確固とした自分の世界をもち、「このオモチャで遊びたい!」「あの山に登りたい!」など、興味のあることに対して“アクセル”を踏み始めます。しかし、“ブレーキ”の存在にはまだ気づきません。親は子どもの成長に合わせ“暴走”しないように見守りながら、“ブレーキ”のかけ方を少しずつ教えていくことが必要なのです。ただ、「言うことを聞かせよう」と“ブレーキ”をかけ過ぎると、自ら“アクセル”を踏もうとしなくなり、その子らしさが失われてしまいます。子どもの年齢や発達に合わせた適切な関わりや言葉かけを心がけ、“アクセル”と“ブレーキ”をバランスよく使えるように導いていきましょう。

●伝えるときのポイント

「ダメ!」「やめなさい!」と叱るだけでなく、「〇〇だったから注意したのよ」「あなたが△△して悲しいわ」など、その理由や親の気持ちを短い言葉でさりげなく、しかし、根気良く伝えましょう。友だちのオモチャを奪ってしまったら「それで遊びたかったのね」など、子どもの気持ちに共感してから注意します。

～言うことを聞かないわが子を“楽しむ”くらいのゆとりをもって～

ひと昔前、日本が貧しい時代は親が朝から晩まで必死に働き、子どもはそんな姿を見ながら、ひたすら親のあとをついていったものでした。あらゆる情報やモノがあふれる豊かな時代となった今、多くのお母さんは情報に振り回され、子どもに少し目を向け過ぎているように思います。もしかしたら「子どもが言うことを聞かない」と思うのは、そのせいかもしれません。

子どもは、着地した後、どの方向に飛ぶのかわからない「ラグビーボール」のようなもの。お母さんが子どもに良かれと思って情報やルールを与えても、期待通りの言動が返ってくることは、まず望めないでしょう。でも、それが子育ての面白さであり、醍醐味なのではないのでしょうか。言うことを聞かないわが子の言動を“楽しむ”くらいのゆとりをもち、お子さんとおおらかに関わっていただければいいですね。

～周りの手を借りながら～

お母さんが1人で「言うことを聞かせよう」と思えば思うほど、ますます子どもに目が向きすぎてしまうので、お父さんはもちろん、おじいちゃん、おばあちゃん、園や学校、習い事の先生など、あなたの代わりにわが子を受け止めてくれる人をつくることも大切です。そして親は子どもに自分の人生を背負わせることなく、自分自身の人生を楽しみ一生懸命に生きていく。そうすれば子どもは自然と自立していき、“言わなくてもできる子”に成長していくはずです。